

普及活動情勢報告（令和3年10月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

尻腐れ果を防ぐために ～‘福耳’の試験栽培を実施～



福耳の果実特徴
(左‘甘とう美人’ 右‘福耳’)

当課では、津野山地域の甘とう栽培（品種：甘とう美人）で多発する尻腐れ果の発生対策に取り組んでいます。そこで、尻腐れ果が発生しにくい品種‘福耳’の普及性を評価するため、5戸の農家で実証試験を行いました。

‘福耳’は、生育初期から順調に生育し、7月下旬まで収穫しましたが、8月から辛味果が多発したため、農家への普及は難しいと評価しました。しかし、一方で農家からは「挑戦することは大事なことだ」「甘とう美人より収量は少ないが、果形が良く、良品が採れやすい」と評価する意見もありました。

当課では、今後も関係機関と協力し、新品種の評価や対策技術の検討を通して、尻腐れ果対策を進めていきます。

ミョウガ葉鞘腐敗症の対策はじまる ～ミョウガの安定生産に向けて～



葉鞘腐敗症状

10月4日、管内のミョウガ栽培で問題となっている葉鞘腐敗症対策のため、JA、農技センターとともに発生ほ場の現地調査を行いました。

現地調査では、葉鞘腐敗症の発生しやすい条件の確認や、原因となる病原菌を特定するため様々な部位のサンプルを採取し、菌の分離を行う事としました。今後、管内の発生状況を把握するために、栽培管理に関する聞き取り調査を行う事を取り決めました。

当課は、関係機関と協力し病原菌の特定や、発症原因の究明を行い、葉鞘腐敗症の発生対策の確立に向けて取り組んでいきます。

促成キュウリの収量向上を目指して ～JA 営農指導員と現地指導～



ハウス内での指導の様子

管内のキュウリ産地では、10月上旬時点で約8割のハウスで定植が終了しました。当課では10月4、11日に環境測定装置を導入しているキュウリ農家7戸をJA営農指導員とともに個別巡回しました。今年は10月に入っても日中の気温の高い日が続いていることから、スムーズな活着を促し、初期の樹づくりに向けたかん水や温度管理について指導を行いました。また、シキイアザミヤ（黄化えそ病）対策として天敵導入を予定している農家には、放飼前に薬剤防除を行い密度を下げてからのゼロ放飼を基本とした天敵放飼までの防除について指導を行いました。

当課は、今後も定期的な巡回指導等を通じて、環境データに基づく栽培管理や病虫害対策の支援を行っていきます。

稲刈り体験 ～おおのみエコロジーファーマーズと高知県立大学の交流活動～



コンバイン操作を教わる学生

10月9日（土）、中土佐町大野見にて、おおのみエコロジーファーマーズ（以下、おおのみEF）と「大野見地域」をよりよく知ってもらうことを目的に、高知県立大学COME☆RISH（管理栄養士を目指す学生団体）との交流会が行われました。交流会では、大野見エコ米の稲刈り体験を行い、生産者3人、学生13人、関係者等の参加がありました。

当課は稲刈りの技術や地域の課題について説明し、学生からは「今年初めての交流活動なので、とても楽しみにしていた」「農業の大変さを一部知ることができた」等の声がありました。

今後もおおのみEFの活動と大野見地域が広く認知され、大野見エコ米の販路拡大につながるよう、組織活動の支援を行っていきます。

農福連携のマッチング支援 ～ニラの作業見学の実施～



ニラのそぐり・結束作業の説明を受けるB型事業所職員

管内の就労継続支援B型事業所から「農作業の仕事を増やしたい」と相談があり、10月19日にニラのそぐり・結束作業について須崎市のニラ農家の作業場見学を実施し、事業所や関係機関等6名が参加しました。

事業所は、現在、ミツバのそぐり作業を行っており、「ニラの作業はミツバに比べ、比較的単純作業でやれそう」という意見が出て、今後、研修を実施することとなりました。

当課は、事業所に対し、可能性のある農作業の紹介や見学の日程調整を行いました。

今後は、当事者同士で条件等の話をしていくこととなりますが、当課は今後も双方から情報収集を行い、マッチング支援をしていきます。